

1. 本園の教育目標
- ・一人一人の子どもたちは、神の恵みのもとに愛されて育ち喜びをもって生きる
 - ・恵まれた自然の中であそびや様々な体験を通して、自分で考え自ら行動する力を育む

2. 本年度の重点目標 「一人ひとりの遊びの意味を大切にする」
- ・あそびを通して自己充実を図る
 - ・豊かな自然環境に自ら働きかけ、それを生活に取り入れようとする

3. 評価項目の達成状況及び取組状況

評価 A(4.0-3.5)：達成している B(3.4-2.5)：一部達成している C(2.4-1.5)：一部改善を要する D(1.4-0)：改善を要する

重点的に 取り組む 目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果						コメント 評価結果に関する説明・意見等	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 評価		総括 評価
環伸発 境び達 をやを 活か促 かなす し心 身の	・一人一人が 意欲的に活動 できる環境の 構成	4	幼児の遊びが持続できるような環境を整える。	3.5	4	友だちと遊びを共有し、様々な教材や玩具を取り入れて楽しむことができる。	3.7	A	<ul style="list-style-type: none"> ・どのクラスも玩具を飾るスペースを確保し気に入った遊びを継続できる環境を整えることで、安心して遊ぶことが出来ていた。 ・幼児は様々な教材や玩具に興味を持ち、友だちと関わりながら遊ぶことが出来ていた。一方、教師は十分な環境や教材提供が出来ているか自信が持てない。 ・今年度から登園後決まった時間まで戸外遊びをし、その後登園準備をするよう取り組んだ。新入園児の泣く姿が少なかったことや喜んで登園する幼児の姿など良い面はあったが、課題改善をしながら次年度も継続的に取り組み結果を評価していきたい。
		3	幼児の遊びや興味・関心に応じた教材を準備する。		3	様々な教材や玩具に興味を持ち、取り入れて遊ぶ。			
		2	幼児が遊びたいと思える環境構成を考える。		2	自分の遊びたい遊びを見つけ、安心して遊ぶことができる。			
		1	幼児が何に興味・関心を持っているか観察する。		1	幼稚園で遊ぶことを楽しみに登園する。			
発尊 達重 のす 特る 性 を	・個性に 寄り添った 保育の展開	4	全職員が個性を共通認識し、日常生活や園行事にて連携できるようになる。	3	4	安心して、教師や友だちと関わり合いながら過ごすことができる。	3.2	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の職員会議で気になる幼児の姿を話し合い、正規職員は共通理解が十分に行えているが、補助職員までは十分とは言えない。また、理解していても実際の対応においては担任と同じ声掛けや援助が出来ているか不安を感じる。 ・個性に寄り添うことを大切に、日常生活や園行事での参加方法を考え取り組んでいる。精一杯取り組んでいるが、正解が分からず不安は大きいため、研修など重ねていきたい。 ・幼児は、不安な気持ちを様々な形で表現できていると思うが、安心して過ごせるには到達していない幼児がいる。「安心して」過ごせる環境や保護者との信頼関係をより丁寧に考え取り組んでいきたい。
		3	幼児理解を深め、一人ひとりに合った配慮や援助を考える。		3	不安な気持ちを教師に伝えることができる。			
		2	個々の思いに耳を傾け、思いを共有できるようにする。		2	好きな遊びを見つけ、安心して遊ぶことができる。			
		1	幼児一人ひとりをよく観察する。		1	教師との信頼関係が生まれ、喜んで登園する。			

安全への意識向上	・安全点検や教職員・幼児の安全対応力を高める	1	危険箇所や緊急時の対応を、幼児に分かりやすく伝わるよう工夫する。	3.3	1	大きいクラスの子どもが、小さいクラスの子どもの避難を手伝う。	4	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに危険箇所や共通のマーク（バツマーク）を確認したり、避難訓練を年間6回実施する中で幼児の意識は高くなっている。一方、バツマークが外れたままになっている箇所があるなど管理不足があったため改善していく。 ・避難訓練を例年と違う設定で実施し、新たな課題点が見つかった。また、教師も幼児も危機意識が高く持てたことが良かったため次年度も取り組みたい。 ・緊急時の非常用備蓄品が整っていない。また、緊急時の対応や知識は十分とは言えないため、さらに学びを深めていきたい。
		1	避難訓練を定期的実施し、反省点を共有するとともに緊急時に活かしていく。		1	避難訓練で知ったことや経験を、周囲に伝えようとする。			
		1	月に1回、園内安全点検を実施する。		1	危険マークや危険箇所を意識し、友だちと互いに声を掛け合う。			
		1	日頃から、園内設備や玩具の安全点検に注意し職員間で共有する。		1	園内の危険箇所や危険を知らせるマークを覚える。			

4. 学校関係者評価委員による評価及び意見

- ・保育者の保育に対しての不安は、保育に正解は無いものと理解し、まず目の前の子どもたちが園生活を楽しめているかで評価して良いのではないかと。保護者アンケートを見ても、園と家庭とがしっかり繋がっていると思える嬉しい評価が多く見られた。それぞれの保育に自信を持ち、保育者自身も楽しいと思える保育を目指してはどうか。
- ・今年度から取り組んだ登園後すぐに戸外遊びに出るという活動は、神愛幼稚園の環境を活かした良い取り組みと感じられるため、次年度も継続してほしいと願う。
- ・安全への意識向上として、避難訓練の設定を変えることで新たな課題点が見つかることは良いことだと思う。安全確保のために工夫をこらした避難訓練を継続してほしい。

委員会実施日 令和6年 3月 5日

5. 本年度の評価・反省及び次年度の課題

・今年度はアドバイザーの訪問を受け、学校関係者評価の取り組みを見直した。これまでの取り組みや捉え方が全く違うことに気付かされ、園長・主任を中心に担任職員も含め「取組指標」「成果指標」を決定することで、今年度大切にしていきたい保育を具体化し、共通認識のもと保育が行えた。ただ、初めての取り組みであることから「取組指標」「成果指標」への意識が低くなりつつあったため、来年度は常に意識を持って保育を実践できるよう取り組む。また、特に取り組みたい内容として特別支援保育のみならず、一人一人すべての子ども達により良い保育を提供するために必要なことを丁寧に考え、「安心して」過ごすことのできる幼稚園を目指し、深い信頼関係を築いていきたい。